広報さいじょう saijo
楽しみと発見のある毎日を

丹高ニュース

№9
令和4年9月21日(水)

～ 豊かな学びの実現 ～

広報さいじょう10月号で紹介されました。～その1～

インターハイに、普通科2年岡田萌花さん（東予東中出身）が出場しました。

丹原高校 剣道部

成長した姿で 次の夏、借りを返す

これまで全国大会の出場経験はなかった2年生の岡田萌花さん。
中学3年生のときに目指した、最後の全国大会はコロナの影響で中止に。
一度は目標を失いかけたが、高校での努力が実を結び初めてのインターハイへ。

もう一度夢に向かって

「今まで、四国大会ですらも出たことなくて。中3のときに目指していた全中（全国中学校体育大会）がコロナの影響でなくなっちゃって、それで一度、目標をなくした。そしたら家族が「まだインターハイもあるけん」って。それで目標が作れてがんばろうと思った」と岡田さんはインターハイへの原点を振り返ります。

県大会の個人戦では、決勝に進出すればインターハイ出場。「初戦が弱いんですよ。でもその日は調子が良くて、初戦勝って徐々に調子が上がっていきました」。その勢いを維持し、そのまま決勝へ進出。「びっくりしました。決勝は中学校のときからよく知ってる3年生の先輩で一本取られたんですけど、その後取り返せたことが自分でもびっくりしとって、それで延長戦まで行けました」と惜しくも敗戦したものの、岡田さんは手応えを感じたと話します。

悔いの残る全国。でも前に

初めての全国大会。「始まる前、緊張はしてましたが、試合になると集中できた」と岡田さん。結果は初戦で惜しくも敗退。試合後、岡田さんは「負ける試合じゃなかった。一本取れたかなっていう技が何本もあって、でも決めきれんかった。ほんとに悔しい」。

「インターハイとかで勝ち続けるためには、やっぱ経験値が必要」と練習試合などを通じて、さらに成長していきたいと意気込む岡田さん。初めての全国大会を終えて「出場して、先生や部員のサポート、家族の応援はすごく支えになっていると感じた。県外に住む姉も私の試合を応援したくて帰ってきてくれて。小さいころから一緒に剣道してきた姉に憧く姿を見せたかったんですけど、1回戦で終わって申し訳ないなって。でも「まだ次もあるし、まだ2年生なんやけん、上を目指してもっとがんばりなさい」って言ってくれて、ほんとにうれしかった」。

顧問の近藤先生は「彼女の強みは爆弾のように一発で仕留める攻撃力。2年生ながら、良くやったと思います」と笑顔。来年、さらに成長した姿で全国の舞台に帰ってくる岡田さんに期待です。

強くなった姿で、また同じステージに

丹原高校
稲井 ひかるさん

2年生の春から準備を始め、約1年以上活動しました。大会中はボートとソフトテニスの会場で高校生で考案した「笑顔(えがお)おもてなしブース」を設けて、選手などにシトラスリボンを作ってもらう体験を実施しました。選手がリラックスし、そして思い出となるよう、接しました。完成後は、カバンとかにストラップとして付けてくれたり、愛媛の良いところを話してくれたりして、うれしかったです。

大舞台を支えた立役者

四国インターハイでは、高校生自らが大会の成功に向けて、
大会前の準備や、選手へのおもてなしなど、多様な活動に取り組みました。
選手だけでなく、大会の裏側でも高校生が輝いていました。

生徒推進委員として、普通科3年稲井ひかるさん（東予東中出身）は、大会を盛り上げました。

生徒は、いろいろな場面で活躍をし、成長しています。

広報さいじょう saijo
楽しみと発見のある毎日を

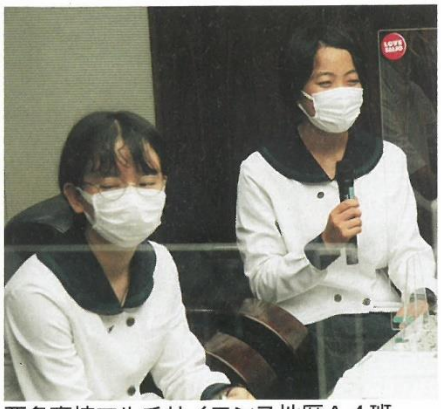
丹高ニュース

№10
令和4年9月21日(水)

～ 豊かな学びの実現 ～

広報さいじょう10月号で紹介されました。～その2～

東予高校建設デザイン部


西条高校マルチサイエンス地歴Ａ４班

丹原高校１・２年生

西条農業高校Team SSS

小松高校地域資源調査隊

◉市長とＨＲ（エイチアール）を開催

高校生と一緒にもっとLOVE SAIJO

８月23日・25日、市内５高校など全10チーム、総勢48人の高校生が市役所を訪ね、市長と懇談や市長室を見学。高校生は、ルールメイキングプロジェクト（丹原高校）や建築甲子園（東予高校）など自分たちの取り組みを紹介しました。

詳細は▼

ルールメイキングプロジェクトとt-timeの
リーダーたちが参加しました。

生徒は、いろいろな場面で活躍をし、成長しています。

Rule Making Project